

制度奏功で23人新採用

保育士不足を解消するため、箕面市は新たに採用した市内在住の保育士と、卒業後に市内の保育所で働くことを約束し保育課程の学生に、生活支援金として毎月2万円を補助している。この制度が奏功し、市は今年度、新たに23人の保育士を採用。保育課程の学生8人が市の保育施設で働く約束をしている。箕面市によると、府内で同様の制度を取り入れているのは、他に大阪府だけだといふ。

【黄在龍】

生活支援金を月2万円

箕面市は2010年度から保育所新設を強化。保育士の待遇は十分でない。厚生労働省に「潜在保育士」6人、新卒者11人、他市保育園から転職者6人が新たに採用された。市は昨年10月、毎月2万円の補助制度を始めた。最大3年間(計72万円)を支給する。資格があるのに勤務していない保育士は「潜在保育士」6人、新卒者11人、他市保育園から転職者6人が新たに採用された。

市内在住の保育課程の学生、大阪青山大、西川女子大など市と提携する12の大学・専門学校に通う学生を対象に、市内の保育所への就職を条件に、月額2万円、最長4年間(計96万円)支給する取り組みも始めた。現在、8人が支給を受けている。

8月1日現在の箕面市の待機児童は145人。市の担当者は「引き続き保育士の確保は必要だ。新たな保育士だけでなく、長く働いている保育士の処遇も改善したい」としてつづ。